

－防災先進国日本の技術を山口からインドネシアへ－

国際協力機構(JICA)は、9月9日、多機能フィルター株式会社と「インドネシア国防災・環境保全及び環境再生技術の普及・実証事業」にかかる業務委託契約を締結しました。本契約は、我が国の中小企業を対象に、JICAが本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。

インドネシア国では防災と環境保全並びに環境再生のための有効な技術開発と普及が求められています。同国のバリ島北部に位置するバトゥール火山周辺では過去の大噴火による土壌荒廃が進んでおり、地下水脈の枯渇につながる懸念もあるため、土壌流出防止が緊急の課題となっています。

多機能フィルター社が開発した土壌保護シートは、産学公連携により植物の生育基盤である“土づくり”に視点において共同研究・共同開発されたシートです。フィルター構造の不織布の機能により、土壌環境を植生に適するように保持する土壌侵食防止機能、保湿機能などを有し、敷設するだけで植物や樹木の計画的導入が可能になります。この製品は日本国内での公共事業の他に電力会社や在日米軍基地などでも高い評価を受けています。同じく同社の種子バッグは、種子、植生基盤材・菌根菌を内蔵する特殊植生袋で雲仙普賢岳の緑化再生の実績もあり、痩せ地や荒廃地などでの樹林化を可能とします。本事業ではこれらの製品を用いて、バトゥール火山周辺の荒廃地の緑化に取り組みます。また、山口大学及びインドネシアのウダヤナ大学と共に現地調達する素材や現地微生物を活用した製品開発とその効果についても研究します。

多機能フィルター社は、災害多発国であるインドネシアにおいて防災・環境保全に関する需要は大きいと見て、インドネシアへの本格展開を検討しています。本事業を通じて、バトゥール火山周辺の荒廃地のみならず、道路や海岸など様々な荒廃地での適応可能性試験を実施し、今後の事業展開も視野に入れた製品開発を行います。先方政府や現地施工業者への技術の普及を図り、現地法人設立のための調査も行います。また、NGO「バリの森を考える会」が行っているバトゥール山周辺の村民や7つの高校の生徒達による植栽活動への参加や防災・緑化に関するシンポジウムなどの開催を通して、インドネシアにおける同分野での技術向上および本事業後のビジネス展開を見込んだ顧客の多様化も図ります。「民間提案型普及・実証事業」は、我が国の中小企業等の製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたもので、平成25年5月に第一回の公示を行いました。JICAは、開発途上国の開発ニーズや課題の解決に資する優れた技術を有する多機能フィルター株式会社と連携し、同社の技術の普及を通じ、開発途上国の課題解決に貢献していきます。

以上